

【第3回県有施設再編等の在り方検討懇話会での議論のまとめ】

- ①東京エレクトロンホール宮城(県民会館)は、仙台医療センター跡地(仙台市宮城野区)に移転する方向で検討を進める。
- ②仙台医療センター跡地の有効利用を図るため、東京エレクトロンホール宮城(県民会館)のほかに付加して再編整備等を行う施設について、更に検討を進める。
- ③仙台医療センター跡地以外の県有地における検討対象施設の集約・複合化についても更に検討を進める。

集約・複合化A案

「東京エレクトロンホール宮城(県民会館)」「宮城県美術館」「宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)」を「仙台医療センター跡地」に集約・複合化する。集約・複合化の具体化と並行し、県有施設の魅力や価値の向上に資するような民間活力の導入可能性の検討を進める。

集約・複合化する施設		現施設床面積	集約・複合化の狙い・効果	他地方公共団体の参考事例等
・東京エレクトロンホール宮城(県民会館)		約12,470㎡	<p>【親和性・相乗効果】 ○劇場と美術館は、ジャンルが異なるものの、文化芸術の振興という共通項があり、他の地方公共団体や海外において、劇場と美術館が集約・複合化されている事例もあること等からも、施設同士の親和性が高く、「文化・芸術の拠点」となる複合施設として打ち出すことができる。</p> <p>○劇場と美術館の機能を併せ持つ複合化施設とすることで、音楽、演劇、美術が一体となった文化芸術の振興・継承の拠点となり、県民が多様な文化芸術を創造、発表、享受できる機会の充実や文化芸術情報の収集・発信の強化につながる。また、多様な分野の交流による文化芸術活動の更なる活性化や新しい価値の創造といった効果も期待できる。</p> <p>○民間公益活動の県内の拠点であるみやぎNPOプラザについては、劇場と美術館という県民、企業、学校関係者など幅広い利用者が集まる施設と併設することで、NPO活動の情報発信やNPO、企業等相互の交流促進機能の強化につながり、NPO活動への更なる理解促進とネットワーク形成といった効果が期待できる。また、県民会館や宮城県美術館にとっても、NPOという新たな文化・芸術の担い手となり得る主体との接点を持ちやすくなり、連携・協働の可能性が広がる。</p> <p>【施設規模の最適化】 ○各施設において、機能を整理し、類似の機能(会議室・研修室等)を共有化することで、施設管理の効率化を図ることができる。</p> <p>【周辺施設との連動】 ○宮城野原公園総合運動場及び現在整備計画が進められている広域防災拠点(平時は緑地公園となる予定)と一体となった県民の憩いの場を形成することができる。</p> <p>○仙台医療センター跡地については、広域防災拠点整備計画において「広域避難場所としての活用やボランティア、ライフライン復旧関連事業者の活動拠点等」として位置付けられており、災害等有事の際には、県民会館や広い敷地を活かして、広域防災拠点を補完する機能を果たすことも期待できる。</p> <p>【利用者の利便性(交通アクセス等)】 ○JR仙石線宮城野原駅に直結し、幹線道路に接している土地のため、交通の利便性が非常に高く、県内外からの利用者が見込まれる施設である県民会館や宮城県美術館の立地に適している。また、みやぎNPOプラザにとっても、利用者の利便性の向上を図ることができる。</p> <p>【民間活力の利用】 ○民間施設を整備できれば、県有施設の魅力や価値が増し、県民サービスの更なる向上を図ることができる。また、PPP手法や定期借地権の設定等により、県に借地料等の収入も見込まれる。</p>	<p>【文化ホールと美術館の併設事例】 ○上田市文化芸術センター・上田市立美術館(サントミュージゼ)(長野県上田市)</p> <p>○愛知芸術文化センター(愛知芸術文化センター栄施設)(愛知県)</p> <p>○島根県芸術文化センター(グラントワ)(島根県)</p> <p>【民間施設等との連携等により施設の価値向上につながっている事例】 ○石川県立音楽堂(石川県)(民間のホテルが隣接している。学会等で多数利用されている。)</p> <p>○大阪天王寺公園エントランスエリア”てんしば”(大阪市)(市立美術館等が立地する公園の入り口エリアに緑地のほか、カフェやレストラン等が設置されている。)</p>
・宮城県美術館		約15,203㎡		
・宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ) 【榴ヶ岡分室庁舎(旧公文書館)】		約1,262㎡		
※民間施設(仙台医療センター跡地の一部)		α㎡		
再編する場所：仙台医療センター跡地				
所在	仙台市宮城野区宮城野二丁目地内			
面積	約54,530㎡			
用途地域	近隣商業地域(建ぺい率80%/容積率300%)			
交通アクセス	JR仙石線宮城野原駅に直結			
その他	大規模集客施設制限地区に指定されている。			

跡地利活用方策の検討の方向性

【東京エレクトロンホール宮城(県民会館)の跡地】

○仙台市や関係機関・団体等の御意見も十分に伺いながら、定禅寺通りエリアの活性化や魅力向上につながるような利活用方策について、今後具体的な検討を行う。

【宮城県美術館の跡地】

○文教地区であることを踏まえ、今後、県による利活用をはじめ具体的な方策等の検討を行う。

今後検討・整理すべき事項

- 県民会館及び宮城県美術館については、今年度策定を予定している「宮城県民会館整備基本構想」及び平成29年度に策定した「宮城県美術館リニューアル基本方針」の内容を十分に尊重し、劇場と美術館の特殊性に配慮するとともに、みやぎNPOプラザを含め施設同士が調和し、最大限機能を発揮できるよう、集約・複合化施設の整備方法やスケジュール等の具体的な検討を行う。
- 施設整備に当たっては、可能な限り機能を共有化し、規模の適正化を図るとともに、イニシャルコストだけではなく、整備後の将来的な維持管理に係るコストも考慮する。
- 県有施設の魅力や価値の向上につながるよう民間事業者の意見等も聞きながら、民間活力等の導入可能性の検討を行う。
- 再編整備に係るスケジュール等を踏まえ、現施設の今後の維持管理計画を検討する。

集約・複合化B案

「エスポールみやぎ(宮城県青年会館)」「宮城県婦人会館」「宮城県母子・父子福祉センター※」を「現エスポールみやぎ(宮城県青年会館)敷地」に集約・複合化する。

集約・複合化する施設		現施設床面積	集約・複合化の狙い・効果
・エスポールみやぎ(宮城県青年会館)		約2,308㎡	<p>【親和性・相乗効果】 ○エスポールみやぎ(宮城県青年会館), 宮城県婦人会館, 宮城県母子・父子福祉センターは, それぞれ対象者が異なるものの, いずれも研修の実施や研修の場の提供が主な機能となっており, 施設同士の機能面の親和性が高いと考えられる。集約・複合化により利用者間の交流や施設同士の事業の連携など, これまでの取組の発展が期待できる。</p> <p>【施設規模の最適化】 ○各施設の中心的な機能は研修・セミナー等による自己開発や啓発活動であり, 機能を整理し, 各々が持つ会議室・研修室を共有化することで, 施設機能の整理, 施設管理の効率化を図ることができる。特に, 宮城県母子・父子福祉センターについては, 現在使用していない寮機能等を廃止することで, 維持管理費用の削減が見込まれる。</p> <p>【周辺環境への影響】 ○エスポールみやぎ(宮城県青年会館)については, 現地での建替えとなり, また, 敷地の周辺は, 主に県関係施設(消防学校, 仙台土木事務所, 保健環境センター, 宮城県障害者総合スポーツセンター等)であるため, 周辺環境への影響は, ほとんどないと考えられる。</p> <p>【利用者の利便性(交通アクセス等)】 ○エスポールみやぎ(宮城県青年会館)は現地での建替えとなり, 交通アクセスに変化は生じない。また, 現在の立地だからこその利点(周辺スポーツ施設へのアクセスや宿泊料金の設定など)もあり, 現地での建替えは利用者サービスに資するものと考えられる。 ○宮城県婦人会館については現在の場所より公共交通機関によるアクセスはやや不便になるが, 事業への影響は少ないと見込まれる。また, 宮城県母子・父子福祉センターについては現地の近傍への移転となるが, 公共交通機関でのアクセスが多少改善され, 利用者の利便性は向上する。 ○敷地の東側は, 飲食店等の商業施設が立地しており, 研修等で訪れた利用者にとって利便性がよい。</p>
・宮城県婦人会館 【榴ヶ岡分室庁舎(旧公文書館)】		約479㎡	
・宮城県母子・父子福祉センター※		約921㎡	
再編する場所：現エスポールみやぎ(宮城県青年会館)敷地			
所在	仙台市宮城野区幸町四丁目地内		
面積	約4,828㎡		
用途地域	第一種住居地域/第二種住居地域 (建ぺい率60%/容積率200%)		
交通アクセス	JR仙石線陸前原ノ町駅から徒歩約25分 JR東北本線東仙台駅から徒歩約20分		

跡地利活用方策の検討の方向性

【榴ヶ岡分室庁舎(旧公文書館)跡地】

○他の県有施設の老朽化の状況等を注視しながら, 仙台市の都市計画マスタープランや周辺の環境など踏まえ, 今後県による利活用をはじめ具体的な方策等の検討を行う。

【宮城県母子・父子福祉センター跡地】

○周囲に県関係施設が多く立地していることを踏まえ, 今後県による利活用をはじめ具体的な方策等の検討を行う。

今後検討・整理すべき事項

○県有施設については, 改めて必要となる施設機能の整理を行った上で, (一財)宮城県青年会館と整備手法や事業スケジュール等について協議・調整を行う必要がある。なお, 施設整備に当たっては, 可能な限り機能の共有化を図り, 規模の適正化を図るとともに, イニシャルコストだけでなく, 整備後の将来的な維持管理に係るコストも十分に考慮する。
 ○再編整備に係るスケジュール等を踏まえ, 現施設の今後の維持管理計画を検討する。

※宮城県母子・父子福祉センターについては, 宮城県聴覚障害者情報センター(みみサボみやぎ)と同様に県庁周辺の県有地・県有建物, 福祉関係の外郭団体の土地・建物を含めて再編を検討することも並行して行う。